

U・優プランII

～第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画～

第2期推進計画
(平成29年度～令和3年度)

事業評価報告書



令和4年10月

浜松市ユニバーサルデザイン審議会

目 次

1. U・優プランⅡ第2期推進計画の評価にあたって	2
2. 第2期推進計画の総括	2
3. 第2期推進計画の基本目標ごとの評価	4
基本目標Ⅰ 思い合い、認め合う“こころ”	4
基本目標Ⅱ みんなで支え合う“しくみ”	5
基本目標Ⅲ 誰もが暮らしやすい“まち”	6

1. U・優プランⅡ第2期推進計画の評価にあたって

U・優プランⅡ第2期推進計画（H29～R3）では、浜松市ユニバーサルデザイン審議会において、推進事業別に目標に対する達成状況、各課の取組状況、市民等意識調査をもとにユニバーサルデザインの進捗状況を評価してきた。第2期推進計画期間終了に伴い、令和3年度までの実績により評価を行った。

2. 第2期推進計画の総括

第2期推進計画では、「ユニバーサルデザイン（UD）の普及啓発を行う人材を育成するなどして、定着・実践に結び付けること」や「UDによる環境整備や仕組みづくり」を課題としている。

「UDの定着・実践に結び付けること」に関しては、UD意識調査（令和2年度実施）の「思いやりのある行動をする人が増えていると感じる人の割合」は4年前と比べて向上（5.7ポイント増）しているものの、「思いやりのある行動をしている人の割合」は低下（10.0ポイント減）している。また、若年層はUDの理解度・認知度が高い傾向にあるものの、そのことが思いやりのある行動にはつながっていない。これは、人と人との接触を遠ざけるコロナ禍の影響を反映したことも想定されるが、「心のユニバーサルデザイン」を進めるために、単なる知識だけでなく、いかに行動につなげるかが課題となる。

「UDによる環境整備や仕組みづくり」に関しては、UD意識調査の「自分の住む地域が暮らしやすいと感じる人の割合」は6割を超え、また、過去の調査からも大幅に上昇しており、一定の評価ができる。しかしながら、「誰もが就業できる機会が確保されていると感じる人の割合」、「誰もが文化芸術活動、スポーツ活動などに参画できる機会が確保されていると感じる人の割合」、あるいは「市政情報の提供についてUDに配慮していると感じる人の割合」については、5割にも満たず、まだ課題があるという結果であった。

事業所に対するUD意識調査では、「事業所での働きやすい環境づくりの配慮」について、「特に配慮していない」が最多となり、「事業を営む上でUDを取り入れているか」とい

う設問では、「取り入れていない事業所の割合」が7割を超え、前回とほぼ変わっていない結果から、まだ啓発が十分に進んでいないことが判明した。

「各施設の利用のしやすさ、分かりやすさ、十分に設置されていると感じる人の割合」は、公共施設と民間施設、思いやり駐車場や多目的トイレといった個々の設備に関しては、比較的利便性が高く施設のUD化が進んでいると評価できるものの、歩道や案内サインは低い傾向を示している。ハード整備について、公共交通、道路、案内サインといったものと、安全・安心な防犯・防災といったものに対して必要性が高いということが分かった。今後も継続して、環境整備や仕組みづくりに取り組んでいく必要がある。

3. 第2期推進計画の基本目標ごとの評価

基本目標別に設定した目標数値の進捗状況をもとに評価を行った。

基本目標Ⅰ 思い合い、認め合う“こころ”

◆基本目標の評価指標

指 標	H28 UD意識 調査	R2 UD意識 調査	増減	目標
UDの理解度(詳しく知っている、知っている)	41.5%	51.5%	+10.0	47.0%
思いやりのある行動をする人が増えていると感じる人の割合	39.9%	45.6%	+5.7	46.0%
思いやりのある行動をしている人の割合	76.5%	65.7%	-10.8	82.0%

■ 分析・評価

「思い合い、認め合う“こころ”」では、UDを市民に広く浸透させるための普及・啓発について取り組み、その効果を検証した。

「ユニバーサルデザイン（UD）」という言葉を知っている市民の割合（理解度）は、平成28年度から令和2年度までの4年間で10.0ポイントの増加となっている。これは、小中学校におけるUD学習をはじめ、これまでの啓発事業により、UDが浸透してきたものと考えられる。しかし、「思いやりのある行動をする人が増えていると感じる人の割合」が5.7ポイント増加しているものの、「思いやりのある行動をしている人の割合」は10.8ポイント減少していることについては、多様性を尊重する時代を迎え、サポートする方法が複雑化したため、自身の行動を躊躇したり控えたりしてしまうことも一つの要因と考えられる。

基本目標Ⅱ みんなで支え合う“しくみ”

◆基本目標の評価指標

指 標	H28年度 UD意識 調査	R2年度 UD意識 調査	増減	目 標
誰もが暮らしやすい地域だと感じる人の割合	41.1%	62.1%	+21.0	46.0%
高齢者、障がい者などを支援する活動等に参加したことがある人の割合	25.9%	30.8%	+4.9	31.0%
UDの認知度(詳しく知っている、知っている、聞いたことがある)	74.7%	79.9%	+5.2	80.0%
UDを取り入れている事業所の割合	23.5%	22.7%	-0.8	29.0%

■ 分析・評価

「みんなで支え合う“しくみ”」では、誰もが住み慣れた地域で生きがいを感じて生活できるよう、地域で互いに支え合い、情報を共有できる仕組みづくりや環境整備に取り組み、その効果を検証した。

「誰もが暮らしやすい地域だと感じる人の割合」は、21.0ポイントの増加となり、大きく改善された。

「高齢者、障がい者などを支援する活動等に参加したことがある人の割合」、「UDの認知度」は、それぞれ、4.9ポイント、5.2ポイントの増加となり、特にUDの認知度は、理解度とともに過去最高の結果となった。これは第1次計画から20年が経過し、普及啓発が着実に進んできたものと評価できる。

「UDを取り入れている事業所の割合」は、0.8ポイント減少の22.7%に留まり、事業者に対するUD啓発やUDへの取組促進が課題である。

基本目標Ⅲ 誰もが暮らしやすい“まち”

◆基本目標の評価指標

指 標	H28年度 UD意識 調査	R2年度 UD意識 調査	増減	目標
民間施設について利用しやすいと感じる人の割合	53.5%	60.4%	+6.9	59.0%
防災・防犯の面で安全・安心に暮らせる地域と感じる人の割合	46.0%	54.3%	+8.3	60.0%

■ 分析・評価

「誰もが暮らしやすい“まち”」では、誰もが利用しやすい施設づくり、防災・防犯対策など安全・安心に暮らせるための環境整備について取り組み、その効果を検証した。

「民間施設について利用しやすいと感じる人の割合」は、6.9ポイント増加の60.4%となった。これは、大型商業施設や鉄道駅などのUD化された民間施設が増えたことにより、利用しやすいと感じることが多くなってきたことが要因と考えられる。

「防災・防犯の面で安全・安心に暮らせる地域と感じる人の割合」は、8.3ポイント増加の54.3%となり、過半数を超えた。近年の大地震や記録的な豪雨による災害、凶悪犯罪などに対する防災・防犯などの取組において一定の成果があったものとする。